

# 大分県立竹工芸訓練センター

## 令和8年度竹工芸科入校生募集！

訓練目標	花籠、盛籠等の伝統的工芸品を中心に生活用工芸品の製作等に必要な竹材、籐材の加工及び編組技術、染色塗装法に関する実技と関連知識を習得します。さらに、企業経営力、マーケティング、商品開発力、プレゼンテーション能力、アート作品の製作能力を学ぶことにより、起業し自活できる竹工芸職人の能力を身につけます。
主な就職先	県内の竹製品製造企業、竹製品販売卸、自営業

### 募集要項

出願資格	令和8年4月1日時点の年齢が18歳～39歳以下で、次の(1)～(3)のいずれかに該当する方 (1) 離転職者、一般求職者 (2) 令和8年3月大学・短期大学・専門学校卒業見込み者 (3) 令和8年3月高等学校卒業見込み者
募集定員	12名
募集期間	令和7年11月25日（火）～令和8年1月30日（金）17時必着
提出書類	①入校願書（大分県職業能力開発校専用様式） 募集対象(1)(2)の方は、管轄の公共職業安定所で入手してください。 募集対象(3)の方は、高等学校の進路担当の先生にご相談ください。 ②調査書 募集対象(3)の方のみ提出（全国高等学校統一用紙／高等学校発行） 【郵送・持参の場合の入校願書等提出先】 〒874-0836 大分県別府市東荘園3丁目4番3号 大分県立竹工芸訓練センター 【電子申請の場合の入校願書提出先】 ハローワーク窓口で渡されるQRコード（QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です）から、県立職業能力開発校 電子申請ポータルサイトにアクセスしてください。
入校選考	令和8年2月15日（日）受付：8時30分～／選考試験：9時00分～
選考場所	大分県立竹工芸訓練センター
選考方法	適性検査、数学、面接の結果及び入校願書等を、総合的に判定し合否を決定します。
合格発表	令和8年2月18日（水）13:00～
訓練期間	令和8年4月7日（火）～令和10年3月13日（月）（2年間）*修了日は予定です
訓練時間	8時30分～16時00分（土日、祝日及び夏・冬・春休み等休校日を除く）
訓練場所	大分県立竹工芸訓練センター
特典	①授業料は無料 ②受講手当、通所手当等を支給（公共職業安定所の受講指示を受けた方のみ） ③通校には学割適用 ④技能者育成資金融資制度 ⑤災害見舞金支給制度 ⑥就職のあっせん
必要経費	授業料は無料ですが、教科書及び実習服等の実費（約6万6千円程度／入校時）が必要です。
その他	①訓練生用の駐車場、駐輪場は有ります。（車通学可） ②寮は有りません。

※ 募集定員及び訓練内容は、今後の情勢により変更することがあります。



大分県立竹工芸訓練センター

〒874-0836 大分県別府市東荘園3丁目4番3号  
TEL 0977-23-3609 FAX 0977-26-5961

【HP】 <https://www.pref.oita.jp/site/280/>



# 竹工芸科

大分県には、国から伝統的工芸品として指定された「別府竹細工」があります。県では、この竹工芸産業の後継者を育成するため、竹工芸科を設置しています。当科は、職業能力開発校としては、**全国で唯一竹工芸の技術を習得できる訓練施設**です。竹工芸品の製作に関する、竹材の材料加工・各種編組技術・染色・塗装技術を学び、現代社会のニーズに対応した竹製品を製作する技術と販売まで行える知識を習得します。



## 募集案内

1. 訓練期間 ..... 2年間  
2. 定 員 ..... 12名  
3. 受験資格

  - ・高等学校を卒業（見込者を含む）又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方
  - ・訓練開始年度の4月1日時点での39歳以下の方

## 【交通アクセス】



### 【問い合わせ先】

## 大分県立竹工芸訓練センター (県立職業能力開発校)

- 住 所 : 〒874-0836  
大分県別府市東莊園3-4-3

●電 話 : 0977-23-3609

●F A X : 0977-26-5969

●H P : <https://www.pref.oita.jp/site/280/>

●Instagram : [https://www.instagram.com/takekougei\\_center/](https://www.instagram.com/takekougei_center/)

HP



Instagram



H



Instagram

● 大分県立竹工芸訓練センター（県立職業能力開発校）

# 竹工芸を学ぶ



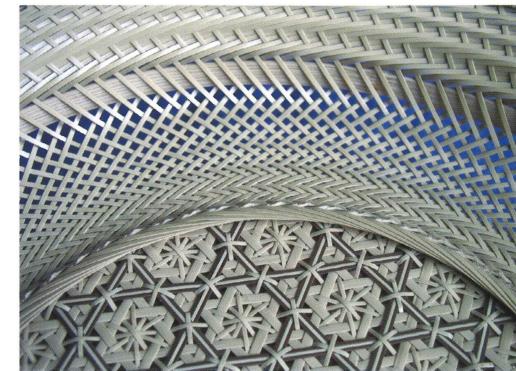
## 別府竹工芸の歴史

昭和54年に、通商産業省（現経済産業省）より伝統的工芸品「別府竹細工」として指定を受けた別府の竹工芸の起源は、景行天皇（第12代天皇）が九州熊襲征伐の折、お供の膳伴（台所方）が、豊後で良質のシノダケが多いことを発見し、メゴ（茶碗籠）を作ったことが始まりとされています。江戸時代には、温泉地別府の名が全国に広がり、湯治客が集まるようになり、湯治客が使用する竹製品がお土産品として好評となり需要の増加と共に市場は拡大し、別府の地場産業として定着していきました。

明治に入り、別府の竹製品はお土産品の域を越え、高度な技術を集約した工芸品へと発展していきました。明治35年には、別府工業徒弟学校（現大分県立大分工業高校の前身）が別府町・浜脇町学校組合立として浜脇に開校され、竹籃科にて竹工芸技術者が養成されました。

昭和13年には大分県工業試験所別府工芸指導所、昭和14年には大分県傷い軍人職業再教育所（現大分県立竹工芸訓練センターの前身）が大分県により設立されました。そして今日においても、日本で唯一の竹工芸の職業能力開発校として、多くの技術者を輩出し続けています。

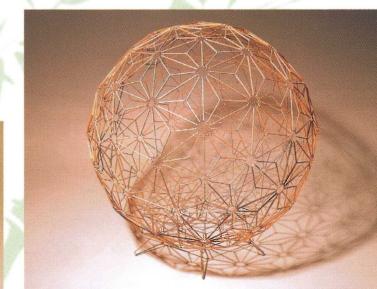
## 作品写真



文庫



バッグ



アート作品

## 訓練風景



作業の様子



竹割り



幅取り



六つ目編